



# 戦後

## 古写真に見られる戦争の痕跡には、旧日本海軍の爆撃場となった貝の浜(伊

川津町)や渥美線路盤跡陸橋(石神町)があります。

### 古写真に残る戦争の痕跡

旧日本海軍の爆撃場は、昭和18年(1943)、伊川津町貝の浜に建設されました。爆弾投下の際の目印が造られ、模擬爆弾の投下訓練は、終戦まで毎日に行われていたとい



◆空中写真「M415 45」部分 昭和22年(1947)米軍伊川津町の貝の浜を米軍が撮影した空中写真(部分)です。模擬爆弾の投下の際の目印が、はっきりと写し出されています。



●石神交差点の渥美線路盤跡陸橋(昭和40年ごろ)



●「工」のマークの杭

から若い練習生が伊勢湾を越えて飛来し、時には模擬爆弾を民家に投下してしまつたこともあったそうです。

### 渥美線路盤跡陸橋(石神町)は、

国鉄渥美線として用地買収や路盤工事が行われたことの名残りです。軍需品を輸送することが目的で、昭和14年(1939)には黒川原〜福江間の路盤工事がほぼ完成していましたが、戦争により、延長計画は断念されました。路盤工事が行われた場所には、「工」のマークの杭(用地界標)や、路盤跡がそのまま残っている所もあります。

## 米国との友情の証 平和を伝える青い目の人形

田原中部小学校には、米国から贈られた青い目の人形(友情人形)が残っています。これは、昭和初期から第二次世界大戦前までに、日本中の学校に1万2000体以上が贈られた人形です。戦争になると、敵国の人形として、焼かれたり壊されたりするなど悲しい運命をたどり、今では全国で約200体ほど。市内で残っているのは、この1体のみです。

同校では、この人形を6年生の社会科の授業で取り上げ、戦争や戦時中の暮らしなどについて学んでいます。戦時中は隠され、平和になり世に出てきたこの人形は、子どもたちに平和の尊さを伝えていきます。



●青い目の人形(田原中部小学校蔵)

### 参考文献

『田原町史』『赤羽根町史』『渥美町史』『広報たはら』『愛知県史別冊 文化財1 建造物・史跡』『伊藤厚史「愛知県東部における本土決戦準備(五)」』『伊良湖誌』『私の八月十五日』

## 平和を願う心を次世代へ

願はしきものは平和なり

これは、日本民俗学の父といわれた柳田國男が、伊良湖や神島などを旅した紀行文『遊海島記』の最後に記した言葉です。伊良湖集落移転前の明治35年(1902)に書いたこの言葉。当時の方たちは、どのように感じ、今の私たちは、どのように受け止めたらよいのでしょうか。

田原市では、戦争に関わり亡くなられた方が2227人いるとされ、毎年4月に戦没者追悼式が行われ

ています。

現在の平

和は、戦

没者の礎

の上に成り

立っています。

観光地となった

伊良湖岬の風景は、

第二次世界大戦後から、随分変わったことでしょうか。

二度と戦争を繰り返さないために、私たちができることは何か。

それは、戦争の悲惨さを次世代へと伝え、平和について考えていくことではないでしょうか。

